

…のように上付き文字で記し、文献名は別の原稿用紙に一括して番号順に列記してください。

2) 原則として私信は引用しないでください。やむを得ず引用する場合は、内容を公開できるようにしてください。

3) 引用文献の書き方

雑誌は、引用番号、著者、誌名、巻、ページ、発行年の順に並べ、巻数はゴシック文字または下線でゴシック指定します。発行年は()でくくってください。読者の助けになると思われる場合、題名を記入してもかまいません。その場合は、著者の次に“ ”で囲って記入してください。誌名は、和文誌は正式名で、欧文誌はChemical Abstracts等に従って略記し、略名が一般的でなければ、正式名で書いてください。

例:M. A. Kriss, J. Soc. Photogr. Sci. Tech. Jpn., 59, 186 (1996).

著者名と誌名が英文でも表記されている和文誌の文献の場合、できれば英文の著者名と誌名を併記してください。(J-stageの電子ジャーナルで引用文献が表示される際、英文のページでは和文誌の文献に対して英文表記の氏名と誌名のみが表示されます。和文で表記されているものは表示されません)

例:細井一邦, 平野昭裕, 日本写真学会誌, Kazukuni HO-SOI, Akihiro HIRANO, J.Soc.Photogr.Sci.Tech.Jpn., 62, 269 (1999).

英文と和文が混在している雑誌の場合、対象文献の本文が英文であれば、著者名、氏名も英文でのみ表記してください。本文が和文の場合、上記の書き方によります。

単行本は、引用番号、著者、書名、版数、編者、出版社、出版地、出版年、ページ(章)の順に並べ、便覧などで担当執筆者が不明の場合は、編者を引用番号のすぐあとに書いてください。書名は“ ”で囲みます。

例:1) 日本写真学会編, “改訂 写真工学の基礎(銀塩写真編)”, コロナ社, 東京, 1998, p. 100.

2) J. H. Hamilton, “The Theory of the Photographic Process”, 4th ed., by T. H. James, Macmillan, New York, 1977, p. 108.

6. 数式および化学式の表記法

1) 数式

文中の数式

a/b , $\exp(-E/RT)$ のように表記し、二重添え字やeの肩にのる字などは避けてください。ただし、理解を混乱させる恐れがあれば、この限りではありません。

独立した数式

本文中に上下に1行程度の空きスペースをとって明瞭に書き、連続した式番号を付けます。

長大な数式で誤認の恐れがあれば、本文には上下に1行程度のスペースをとって「別紙、数式(番号)」と書き、別紙に式番号とともに書いてください。

2) 化学式、および化合物名

化合物の命名

本文では原則として、化学式ではなくIUPAC命名法に従った化合物名で表記してください(ただし、混同の恐れがあれば、この限りではありません)。日本語表記でも簡単に一般性が高ければかまいませんが、学術用語集に準拠してください。あまりに古い慣用名、科学的に根拠のない慣用名は使えません(例: 芒硝, 苛性ソーダ, ハイポなど)。英語の慣用名は、Chemical Abstractsに準拠してください。

化合物の略記号

化合物に略記号を用いる場合は、本文の初出個所で、正式な化合物名に対応させてください。

例:1-フェニル-5-メルカプトテトラゾール(以下PMTと略記)。あるいは(以下化合物(I)とする)など。

独立した化学式

反応式、構造式等の化学式は、本文中に上下に1行程度のスペースをとって明瞭に書き、連続番号を付けます。長大で誤認の恐れがある式は、本文には上下に1行程度のスペースをとって「別紙、化学式(番号)」と書き、別紙に式番号とともに書いてください。

3) ワープロの数式・化学式エディターを使用する場合は、印刷所の組版ソフトで読み取れないことがありますので、正確に印刷した原稿を付してください。

「日本写真学会誌」 解説等 執筆の手引き

(社)日本写真学会編集委員会
2010(平成22)年11月17日制定
2012(平成24)年4月17日改訂
2014(平成26)年1月14日改訂
2016(平成28)年2月23日改訂
2019(平成31)年2月6日改訂
2021(令和3)年2月15日改訂

I 日本写真学会誌について

日本写真学会誌(以下、本誌)は、写真および画像に関する論文や記事などを掲載し、会員に必要な有益な情報を提供するために、年4回発行しています。

上記記事のうち、解説、講座、報告、資料、案内等の記事は、編集委員会からの依頼により執筆されます。以下に解説等を執筆するにあたっての手引きを示します。

II 原稿の体裁

1. 用紙と書式

A4判縦置き横書きで、余白は3cm程度、ワードプロセッサ(MS-Word)により作成してください。和文原稿は1行27字で100行が刷り上がり1ページとなります。刷り上がりと同じ体裁にレイアウトする必要はありません。

2. 構成

原稿はつぎの順に配列して、すべて一つのMS-Wordデータとしてまとめてください。

表紙（日本語題目、英語題目、日本語著者名、英語著者名）、要旨、キーワード、本文、謝辞、参考文献、脚注、図表の説明、表、図

1) 表紙

まず日本語で、題目、著者名、所属、所在地を、行間をあけて書いてください。

次に英語で、題目、著者名、所属、所在地を、行間をあけて書いてください。著者名はフルネームで、Taro YAMADAのように姓を大文字で書いてください。

執筆時の著者の所属が現在と異なるときは、現在の所属を脚注に書いてください。

2) 要旨

和文および英文、両方の要旨を付けてください。

3) キーワード

和文および英文要旨に続いて、それぞれにキーワードを付けてください。原則として5個以内で、日本語ではすべてで40字、英語では20語以内です。

4) 本文

1. 章立てする場合は、1., 1.1, 1.2.1のようにして、番号付けしてください。

3. 図、写真、表

1) 図、写真の説明文は、本文や、図、写真とは別の用紙に、番号順に書いてください。

2) 図、写真、表の挿入箇所を、本文原稿右側余白等に“Fig. 1 挿入”のように記入して下さい。

3) 作成した本文に図・写真・表ともに2. 構成に示した順で組み込み、MS-WordデータとPDFデータを提出していただきます。

4) カラーの写真や図版の印刷では、カラー原稿作成費用がかかりますので、その一部負担をお願いしています。詳細は編集委員長にご相談ください。

4. 脚注

脚注をつける本文の字句の右肩に、*¹, *², …の記号を上付き文字でつけてください。

脚注の文章は、別紙に行間を空けて書いてください。該当ページの最下段に印刷されます。

5. 引用文献

1) 文献引用の表わし方

文献を引用するときには、該当箇所の右肩に通し番号を1)2) …のように上付き文字で記し、文献名は別の原稿用紙に一括して番号順に列記してください。

2) 引用文献の書き方

雑誌は、引用番号、著者名、誌名、巻、ページ、発行年の順に並べ、巻数はゴシック文字または下線でゴシック指定します。発行年は()でくくってください。読者の助けになると思われる場合、題名を記入してもかまいません。その場合には、著者名の次に“ ”で囲って記入してください。誌名は、和文誌は正式名で、欧文誌はChemical Abstracts等に従って略記し、略

名が一般的でなければ、正式名で書いてください。

【例】

1) M. A. Kriss, J. Soc. Photogr. Sci. Tech. Jpn., **59**, 186 (1996).

著者名と誌名が英文でも表記されている和文誌の文献の場合、できれば英文の著者名と誌名を併記してください。(J-STAGEの電子ジャーナルで引用文献が表示される際、英文のページでは和文誌の文献に対して英文表記の著者名と誌名のみが表示されます。和文で表記されているものは表示されません)

【例】

1) 細井一邦, 平野昭裕, 日本写真学会誌, **62**, 269 (1999).

英文と和文が混在している雑誌の場合、対象文献の本文が英文であれば、著者名、誌名も英文でのみ表記してください。本文が和文の場合、上記の書き方によります。

単行本は、引用番号、著者名、書名、版数、編者、出版社、出版地、出版年、ページ(章)の順に並べ、便覧などで担当執筆者が不明の場合は、編者を引用番号のすぐあとに書いてください。書名は“ ”で囲みます。

【例】

1) 日本写真学会編, “改訂 写真工学の基礎(銀塩写真編)”, コロナ社, 東京, 1998, p.100.

2) J. H. Hamilton, “The Theory of the Photographic Process”, 4th ed., by T. H. James, Macmillan, New York, 1977, p. 108.

6. 数式および化学式の表記法

1) 数式

文中の数式

a/b , $\exp(\Delta E/RT)$ のように表記し、二重添え字やeの肩にのる字などは避けてください。ただし、理解を混乱させる恐れがあれば、この限りではありません。

独立した数式

本文中に上下に1行程度の空きスペースをとって明瞭に書き、連続した式番号を付けます。

長大な数式で誤認の恐れがあれば、本文には上下に1行程度のスペースをとって「別紙、数式(番号)」と書き、別紙に式番号とともに書いてください。

2) 化学式、および化合物名

化合物の命名

本文では原則として、化学式ではなくIUPAC命名法に従った化合物名で表記してください(ただし、混同の恐れがあれば、この限りではありません)。日本語表記でも簡単に一般性が高ければかまいませんが、学術用語集に準拠してください。英語の慣用語は、Chemical Abstractsに準拠してください。

化合物の略記号

化合物に略記号を用いる場合は、本文の初出個所で、正式な化合物名に対応させてください。

【例】1-フェニル-5-メルカプトテトラゾール(以下PMTと略記)。あるいは(以下化合物(I)とする)など。

独立した化学式

反応式、構造式等の化学式は、本文中に上下に1行程度のスペースをとって明瞭に書き、連続番号を付けます。長大で誤認の恐れがある式は、本文には上下に1行程度のスペースをとって「別紙、化学式(番号)」と書き、別紙に式番号とともに書いてください。

3) ワープロの数式・化学式エディターを使用する場合は、印刷所の組版ソフトで読み取れないことがありますので、正確に印刷した原稿を付してください。

7. 別刷料金

解説・講座等の依頼原稿執筆者は、掲載誌1部と、掲載ページのpdfファイルを受け取ることができます。さらに、別刷が必要なときは別表2の料金で購入できます。

別表2. 依頼原稿の別刷料金 早見表

ページ数	別刷り部数			
	50	100	150	200
1	3,000	4,000	5,000	6,000
2	4,000	5,000	6,000	7,000
3	5,000	6,000	7,000	8,000
4	6,000	7,000	8,000	9,000
5	7,000	8,000	9,000	10,000
6	8,000	9,000	10,000	11,000
7	9,000	10,000	11,000	12,000
8	10,000	11,000	12,000	13,000
9	11,000	12,000	13,000	14,000
10	12,000	13,000	14,000	15,000

11 ページ以上は別途お知らせします。

「日本写真学会誌」における著作権の取扱いについて

(一社)日本写真学会編集委員会

2001(平成13)年12月19日 制定

2010(平成22)年2月17日 施行

- 本規定は、『日本写真学会誌(以下、本誌という)』に掲載された原稿の著作権についての取り扱いを定める。
- (一社)日本写真学会(以下、当会という)は、本誌に掲載される全論文および記事の著作権委譲を著作者に求める。
 - 委譲が得られないものは掲載しない。
- 著作権委譲は、規定書式により作成した契約書への全著作権者の自署により行う。本書面は編集委員長が保管する。
 - 著作権委譲の文化庁への登録は、必要が生じたときにのみ行なう。
- 当会は、著作権の譲渡をうけた著作の、印刷、複製、放映、Web掲載等の、独占的な頒布公表権を保有する。
 - 頒布公表法については、印刷や放送等の既存メディアだけでなく、今後開発されるあらゆるメディアを含む。
- 著作者は、当会への著作権委譲後も次の権利を留保する。
 - 著作者人格権等の著作権法に規定された権利。
 - 本著作の内容を含む書籍を出版する権利。
 - 本著作の内容を含む特許取得および製品製造に利用する権利。
 - 著作者が属する組織内(学内、社内など)で配布する権利、および組織内で限定的にアクセス可能な電子メディアへ掲載する権利。この場合、原著作物からの改変を行わず、

複製物には本誌名と掲載の巻、号、ページおよび発行年を明記します。

著作者が属する組織外(学外、社外など)に本著作を複製配布する場合、および組織外から自由にアクセス可能な電子メディアに掲載する場合には、無償であっても当会との協議をします。

一般の複写については本誌に掲載の「複写をされる方」によりまします。

⑤ 本著作の日本写真学会誌における印刷公表後に、本著作に使用した図、表、写真等の素材データを、著作者の以後の研究論文、解説などの著作に、使用する権利。

⑥ 講演発表や放送などにおいての説明のために、本著作を部分的に複製、表示する権利。

6. 著作者と当会との間で著作権に関する協議の必要が生じた場合は、編集委員長あるいはその代理人と著作者との間で協議を行ない、編集委員会で決定する。

7. 本規定の施行日は、日本写真学会編集委員会において決定する。

8. 本規定の改廃は、日本写真学会編集委員会において行なう。

以上

The Society of Photography and Imaging of Japan

You are cordially invited to become a member of the Society of Photography and Imaging of Japan (SPIJ). The Society provides useful information with regard to the trends in photography and imaging science while also serving as a platform to engage with its members. We sincerely recommend that you to become a member of the Society so that you will have the advantage of being involved in the finest activities and discussions in the field of photographic science and technology.

History and Scope

Photography was invented by Niépce and Daguerre more than 170 years ago. Presently, owing to recent developments in electronics and materials science, photographic technology has successfully advanced to include autofocus cameras with electric eyes and superhigh sensitive films.